

わが国の家庭教育の史的研究所(第4報)～中江蘇樹の家庭訓～
 和泉短大 坂田澄

目的 子供は家庭に生まれ、そして家庭を生活の中心の場として成長する。それゆえに、家庭を場として営まれる家庭教育は、すべての教育の基礎になる最も大切な教育であるといえる。本研究では、二のような重要性を帯びている家庭教育について、そのあり方を考えるために、わが国における家庭教育の史的研究所を行なったのである。今回は江戸時代の儒者である中江蘇樹の家庭訓を中心に彼の家庭教育論を考察することにした。

方法 本研究では、彼の著書である翁問答を分析して、親と子の関係、親のあり方、子のあり方、社会化等を中心に考察をした。

結果 ① 家庭教育の目的は、(封建社会の人間という制約はあろうが)、人間性を高め、人間としてふさわしい行動や実践をすることと大切であると主張している。
 ② 大人と子供は異なる存在である。したがって、子供には子供の世界があり、その世界における生活体験の中から成長覚悟を考へることとすべきであると主張している。
 ③ 父母の心が重要になるようにすることと、父母も子に敬い慕うことが、子としての道であり、重要な孝行の身目であると主張している。